

橋下市長による権利侵害や職員の生きがいを奪う2条例制定を許すな！

大阪市に働く労働者・大阪市労組連帯激励集會に全国から150人が参加

大阪市の橋下市長が労働者・労働組合への権利侵害を続ける中、大阪労連は3月20日、大阪市内で「大阪市に働く労働者・大阪市労組連帯激励集會」を開催し、全国からの支援の仲間をふくめて150人の参加がありました。

集會では、川辺和宏大阪労連議長が主催あいさつし、「橋下市長の暴挙に対するたたかいが大きくなっている。私たちは特定団体との癒着など大阪市が抱えている問題を批判してきた。それが改善されることはいいこと。しかし、手法が問題で全国から批判が起きている。その中で出された『思想調査』にかかわる大阪府労委の勧告は当然であり、市長は謝罪して不当な調査活動をただちに断念すべきだ。すべての労働者・住民への攻撃と受けとめ、たたかいにむけた意思統一を要請する」と呼びかけました。

激励に駆けつけた全労連・小田川義和事務局長は、「相手を攻撃するためには手段を選ばないことに橋下氏の危険性がある。それに加えて、今回の攻撃は、労働組合そのものを否定する点で断じ

て認められない。連合も批判的であり、全国のすべての労働者・労働組合に共同がひろがる展望がある。全労連も橋下市長と対決してたたかう決意だ」とのべ、その後、自治労連・猿橋均書記長、全教・長尾ゆり副委員長、建交労・藤好重泰委員長、JM IU・生熊茂実委員長ら中央から参加した単産代表が次々と登壇し、激励の言葉がおくられました。

(猿橋自治労連書記長)



橋下市長の大阪市労組連への攻撃は、労働組合の目・耳・口をふさぎ、政府の「一体改革」の推進者をつくるものだ。無法な攻撃を決して軽視はできないが、ひるむ必要もない。市民の暮らしを守る職場づくりに奮闘しよう。

(長尾全教副委員長)



運動が変化を生み出している。橋下「教育改革」をストップさせたいと、親と先生が手を結んでがんばっている。「君が代」を歌う教師の口が動いているかどうかを確かめるなど、子どもたちの卒業式を監視の場にしようとしている。「住民のために働きたい」という願いを示し、住民とともに二条例を廃案にしよう。



(藤好建交労委員長)



JRでは効率化を優先させ、安全が忘れられた結果、福知山線の大事故が起こった。バス運転手が「厚遇」と攻撃して、4割もの賃下げをねらっているが、収入の額は住民の安全を担保するものでもある。安全軽視のあやまちを繰り返そうとしていることの大きな怒りを感じる。

(生熊JMIU委員長)



この攻撃を突破できれば、新しい民主主義が生きる自治体をつくることができる。展望を持ったたたかいだ。バス運転手などへの賃下げは仕事への冒涇であり、これを許せば賃下げの悪循環がひろがるだけだ。組合事務所の貸与は当たり前であり、民間では常識だ。民間の仲間がもっと前に出てたたかうべき課題だ。大阪発のファシズムを許すな。

宮武大阪労連事務局長から経過報告と行動提起が行われ、続いて当該組合の大阪自治労連・前田委員長から「今、大阪市の職場では口をつむぐことになっている。しかし、大阪市の中でまともな組合活動への期待が大きくなっている。市民の中に入って『格差と貧困』の解消にとりくむ必要がある。市民の願いを実現するために、市民と一緒に運動をすすめていきたい。」、大教組・小林優大書記長から「条例の問題が出されて、地域での対話がすすんだ。辛辣な意見も有ったが、1人ひとりの子どもが成長できるための教育が大切との一致点が広がった。枚方市長や大阪狭山市長などは明確に反対している。府立高校PTA協議会

との共同など運動は大きく広がっていることを確信に最後までたたかう。」、大阪市労組連の実森之生委員長から「これまでの支援に本当に感謝している。市民と共同して攻撃をはね返していきたい」とたたかう決意が語られました。

最後に、続昌司大阪労連副議長の閉会



あいさつと団結ガンバロウで集会は幕を閉じていきました。

集会には、奈良・和歌山・兵庫など各地方労連からも激励をいただき、終了後



には、なんば高島屋前で宣伝行動に取り組み、祭日でにぎわう街角で「橋下市長は労働組合敵視を止めろ」

「不当労働行為をやめろ！」「二条例を許すな！」と弁士が次つぎに訴えました。



